

健康増進の とりくみを交流

～第3回HPHフェスティバル～

本院の各部門が取り組んでいる健康づくり活動の交流の場として、6月4日に3回目となる「HPHフェスティバル」を開催しました。

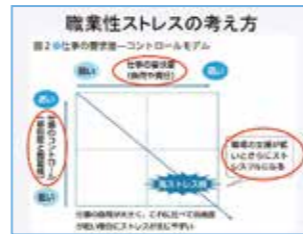
本院では、HPH（健康増進活動拠点病院）として、様々な活動を行っています。HPHとは、WHO（世界保健機関）が1988年に開始した国際的な病院とヘルスサービスのネットワークです。HPHでは、患者さんだけでなく、地域住民や病院で働く職員の健康づくりも重視して取り組んでいます。

交流集会は、コロナ禍のため分散会場や自宅で個人端末を使用しているオンライン形式とし、73名の職員が参加し交流しました。

特別講演では、本院の産業医でもある千鳥橋病院の中司医師に「コロナ禍における職員のメンタルヘルス」についてお話し頂き、コロナ禍によるストレス増大に対してどう対応するかについて学びました。続いて各職場が取り組んでいる健康づくり活動に



講演する産業医の
中司貴大医師
なかし たかひろ



ついて発表、患者さんに寄り添う取り組みや医療従事者のリスクを減らす活動など、各職場の発表に大いに刺激を受けて、次のステップにつながる交流となりました。

退院支援シートを使用して

- 患者さんに寄り添ったケアが実現した
- 退院支援に対する意識が高まった
- セサビとの連携が以前よりスムーズになった
- 課題や問題点の見える化が出来、情報共有しやすくなった
- 手帳が増えた

医療療養型病棟での退院支援(6F病棟)
～退院後の患者さんの不安を多職種でサポート

本院におけるレンタルクッションのシステムの導入について(リハビリ)
～良い姿勢を保つために

緩和ケアで健康増進？緩和ケアで元気になる？

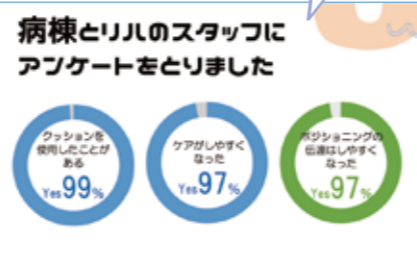
真の緩和を知った時
奇跡のギフトを受け取りました
出会えなかったら 出会わなかったら
真のやさしさに触れるたび
わたしは元気になりました
光の中でも、暗闇の中でも
奇跡のギフトもたらされる
奇跡のギフトもたらされる

緩和ケアにおけるHPHを考える(7F病棟)
～緩和ケアで健康増進？！

持参薬を使用するメリット

持参薬(薬剤科)
～持っているお薬を有効に活用

病棟スタッフを対象とした口腔ケア咬傷対策アンケート調査(歯科)
～口腔ケア中に手を咬まれるリスクが...



方法

対象：看護師80名 介護士31名 計111名

調査項目：口腔ケアや口腔に関係する場面で

- 咬まれたことになったことの有無・時期・状況の記述
- 咬まれたことの有無・時期・状況の記述
- 咬まれないように注意していることの有無・具体的な内容の記述

※口腔ケア困難患者の抽出

口腔ケア用補助用品紹介

Wi-Fi環境が整いました!

ご要望の強かった院内でのインターネット使用について、この度Wi-Fi環境を整備し、待合室や病室でも無線でインターネットのご利用が可能となりました。



たたらリハビリテーション病院通信

みんなそろって たたら

vol. 49
2022年6月号

自治体とのコラボで 認知症に優しいまちづくり

リハビリテーション技術部 作業療法科(OT科)



令和元年から福岡市東区保健福祉センター地域保健福祉課が「認知症に優しいまちづくり」事業を始動し、初期から活動メンバーとして参加させて頂く機会を得ました。

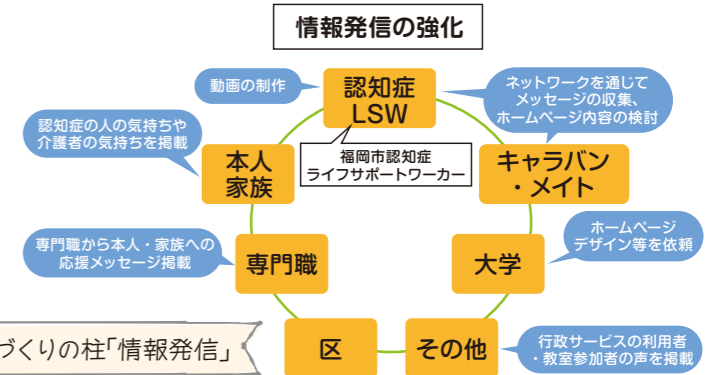
令和3年までの事業活動として、福岡市ホームページ内に東区認知症オレンジちゃんねるの開設、東区の自治会(8カ所)や福岡工業大学の学生と地域自治会合同による認知症見守り訓練の開催などを行ってきました。この取り組みが、認知症キャラバンメイト*令和3年度報告会(全国キャラバンメイト連絡協議会主催)で優秀賞に選ばれました。

本院が令和元年から八田公民館と協力して行っている認知症見守り訓練の内容が東区役所で雛形化され、エリアの事業所ネットワーク*間で共有されたことが、認知症見守り訓練の開催場所



八田校区での見守り訓練

の拡大に繋がっています。また、認知症オレンジちゃんねるでは、リハビリテーション技術部OT科で作成した「認知症の人の生活のヒント」の動画が掲載されています。多くの方にご覧頂けたらと思います。



認知症に優しいまちづくりの柱「情報発信」

*キャラバンメイト

認知症について正しく理解し、認知症の人や家族の応援者となる「認知症サポーター」の養成講座を企画・開催し、講師を務めるのがキャラバンメイト。

*事業所ネットワーク

東区内では、地域の福祉施設・介護保険事業所・医療機関などがネットワークを組んで、地域の健康づくりや地域福祉推進に協力する取り組みをおこなっており、現在14のネットワークが活動しています。本院は多々良校区近隣地域のネットワーク「ひがしかぜの会」で活動しています。



発行元/公益社団法人福岡医療団 たたらリハビリテーション病院広報委員会
〒813-0031 福岡市東区八田1-4-66 TEL:092-691-5508 FAX:092-691-5634

<http://www.tatara-reha.jp>

たたらリハビリ



たたらリハビリテーション病院は、日本医療機能評価機構認定病院です。

新入職員のご紹介



4階病棟・看護師

やまだ ゆうき
山田 優希
長崎県出身

誠実な行動態度で
がんばっていきたく
と思います。



医事課・事務

くぼ ひかる
久保 日華瑠 福岡県出身
外来業務を半年でマスター!!

3階病棟・看護師

なか
中 はるな
長崎県出身

学びを自分のもの
にして成長できるよう
頑張ります。

5階病棟・看護師

きしま かなこ
貴島 加奈子 福岡県出身

自分にできることを精一杯して、信頼
してもらえ看護士を目指します。

3階病棟・看護師

いのうえ あきえ
井上 晶絵 福岡県出身

早く仕事を覚えられるよう一生懸命頑張ります。
これからよろしくおねがいいたします。

6階病棟・看護師

ひらの あかり
平野 朱莉 福岡県出身

自分1人でもできることを1つ1つ
増やしていく

4月より



着任しました



医療介護相談室
ソーシャルワーカー
(社会福祉士)

おがわ まさと
小川 真澄



皆さんこんにちは！ 新人ソーシャルワーカーの小川と申します。
今までは「地域包括支援センター」にて地域にお住まいの高齢者支
援を行っていましたが、4月より医療ソーシャルワーカーとして病院
勤務に就くこととなりました。

今回、初めての医療の現場ということで毎日が緊張と戸惑いの連
続ですが、一日でも早く慣れるよう頑張っている最中です。不慣れな
ためご迷惑をお掛けすることもあるかも知れませんが、宜しくお願い
します。

感染対策さらに強化

～クラスターの教訓を活かして～

当院では1月18日に入院患者と職員のCOVID-19
(新型コロナウイルス感染症)が確認され、1月19日に
クラスターと認定されました。感染者の院内隔離や転
院、院内消毒など感染防止の対応を取り、2月21日をも
ってクラスターを収束させることができました。

この間、患者さまやご家族・地域の皆さまには多大
なご迷惑とご心配をおかけしましたが、病院として
多くの教訓を得ることができました。

クラスターを経験して強化した対策として、感染症の
標準予防策の徹底を図ること、中でも、「手指衛生5つ
のタイミング」のうちの「患者周辺の物品に触れた後」

に関して、エレベーターホールや階段室にも手指消
毒アルコールジェルを増設し、院内のどこでも手指消
毒ができる環境を整備しました。また、クラスター収束
後も引き続き職員のN95マスク着用、院内でのゴーグル
やアイシールドの着用を徹底するなど、院内感染防止の
レベルアップを図っています。

<N95マスク>

0.3μmの粒子を95%以上捕集できる規格のマ
スク。新型コロナウイルスを含んだエアロゾル
の捕捉に有効。

花のある風景



ジギタリス (玄関前の花壇)

有毒植物なので誤って食べると大変。
「毒薬変じて薬となる」とのことわざ
通り、有毒成分は心臓の薬にもなる。



ガクアジサイ (駐輪場奥の花壇)

本当の花は内側の目立たない部分に
あり、周辺の花びら状のもの(装飾花)
には、実ができることはない。



テンジクアオイ (通所リハビリ入口)

一般的に「ゼラニウム」と呼ばれてい
るが、植物分類上のゼラニウム属は
別物なのだとか。